

神奈川山梨教会連合会たより

かりん

コロナ禍の後には

金光教神奈川山梨教会連合会

副会長 村田 光治

小さな小さな存在が、大きな大きな影響を世界に及ぼしています。お亡くなりになられた方々の御霊のお道立てと、罹患された方々の快復を願ってやみません。

ご本部では、感染拡大防止の取り組みとして、天地金乃神大祭に続いて、6月の教団独立記念祭も遙拝のみとされました。

連合会内の各教会でも、天地金乃神大祭の執行にあたってそれぞれご苦労が御座ることでしょう。遙拝とするところ、中止や延期、執行するにしても、式次第の再考や直会のこと、更にはマスクや消毒などなど、祭典に限らず安心して参拝できる環境の模索に心を尽くされたことと思います。

4月初め、大祭執行などお悩みの教会も御座りかと、アンケートをさせていただくこととなりました。急なことで、締め切り

までの時間もないところ、快くお応えくださり、そのご苦労の一端を共有させていただくことができました。先生方には、ご理解とご協力いただきましたこと厚く御礼申し上げます。(抜粋したものを後掲)

○ この状況下、ある言葉が思い出されます。それは、東日本大震災を振り返って石巻教会長の井上直文先生が言われた「自分が住んでいたところに津波が来たのではなく、津波が来るこの天地に、自分が住まわせていただいているんだ」というものです。神様のお働きの中に、ウイルスをはじめとして様々なものと共存する私たちです。神様は、何かしらの見直しを求められているようです。一方で罹患や休業などで苦しい思いの方がいる。また一方では、後回しにしていたことができると、外出自粛の時間を有効にお使いの方もいます。買い占める人もいれば、配る人もいます。今まで当たり前にしてきた生活から否応なく変化を迫られている今です。これを、難儀ではなく良い機会として、「すべてに礼を言う心」をもって見直しができると思います。

○ この『かりん』を出すことが決まった時

は緊急事態宣言の延長前でした。その後、宣言の一部解除がなされ、全面解除が模索されています。状況は日々変わってきていますが、先は相変わらず見通せません。

しかしながら、事の大小あれど先が見通せないのは今に始まったことではありません。それだけに、私たちは祈るということを日々重ねています。このところの報道に触れる度に、私には思いもよらないところに難儀が及んでいることに愕然とします。

「何もできない」無力感も正直ありますが、「まず祈る」ことはできます。教会へお届けして、難儀に祈りを添えることができます。首都圏フォーラムからは「新型コロナウイルス流行終息祈願詞」が出されています(4ページ参照)。皆で集まったのご祈念はなかなかでき難い今ですが、個々で、また、時間を合わせて、共に祈りを込めてまいりましょう。

ここ数年の連合会の会合で出てきているキーワードに「信心の喜び」があります。このコロナ禍の後には、皆さんと揃って、今回のことを通して皆さんがいただかれた、「信心の喜び」を共有させてもらいたい、新型コロナウイルス感染症の終息と共に、そんなことを祈っています。

本部広前天地金乃神大祭 教務総長挨拶（抜粋）

ごあいさつを申し上げます。

本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、皆様には、本部広前を遙拝していただく形で、天地金乃神大祭をご奉仕させていただくこととなりました。これまで、ご参拝の皆様と共に、この祭場でご大祭をお迎えしてまいりましたことが、当たり前前のことではなかったと、今さらながら感じております。

（中略）

さて、私事で恐縮でございますが、先年亡くなりました私の父は、よく、「小恩は知りやすく、大恩は悟りがたい」という言葉を用いて、「お道の信心の大切なところは、神様のご恩が分かり、そのご恩に報いていくことですよ」と話しておりました。

小恩というのは、人からの親切や思いやり、（中略）日常生活でもよく経験することです。一方、大恩は悟りがたいとあります。私たちにとって、計り知れないというか、どれほどのものであるか見当もつかないほどのものだと思います。

大恩について、金光大神様は、「信心して神の大恩を知れば、無事健康で子孫も続き、財産もでき、一年まさり代まさりのおかげを受けることができる」とおっしゃっています。大恩というものは、信心をする

ことによつて、初めて知ることができません。（中略）そこで、神の大恩とは何かということが問われてきます。

今日私たちが享受している豊かで快適な生活や身の回りの環境というのは、天地より頂いた資源・資材を元にして、科学技術の進歩によつて生み出され、作り上げられたものです。適温に保たれた室内、自動でお風呂が沸き、ご飯が炊けるシステムなど、家事の一つひとつに至るまで、コンピューターや人工知能によつて合理的な生活を営むことができる時代になりました。

（中略）

しかし、いかに技術が進歩し、さまざまな物が作られているとしても、その資源や資材は、元々は天地の御物です。天地が、わが身を削ってお与えくださっていると言えるかと思えます。私たちは、そこにどれほどの天地へのご恩を感じているでしょうか。

食物についてはどうでしょうか。私たちは、お米や野菜、果物、お魚やお肉などを頂いています。これらは生きていく上で欠かすことのできないものです。これらみな、太陽の日照らし、空気、水、お土地の栄養分など、天地のお恵みを頂いて成長したものです。（中略）食物は、私たちにいのちを捧げてくださり、私たちのいのちを支え、養ってくださっています。

社会に目を転じますと、一回の食事にも

事欠く生活をしている人々がいる一方で、どれほどの食物が粗末にされ、捨て去られていることでしょうか。私たちは、「食物はみな、人の命のために天地の神が造り与えてくださるものである」とおっしゃる神様のみ心、食物のいのちの痛みをどれほど感じているでしょうか。

（中略）

神様の大恩が分かりませんと、神様が人のいのちのためにつくってくださった衣食住であるというところまで思いが届きません。「食物でも洋服でも、私がお店に行つて、私が働いたお金で買ってきたものです」

「家も建築業者に頼んで建てたものです」と、当然のように言っておりますけれども、その元は、すべて天地の親神様がおつくりくださったものです。神様の大恩に目覚め、それを感じる生活をいたしませんと、「わが力で何事もやり」という思いが、すべての土台になりますから、神様がお喜びくださり、立ち行くおかげを頂くことができなないので。

そこで、天地乃神様が、生神金光大神様をお差し向けになつて、神のご恩を分かつて立ち行くことができるようにと、神の願いを託されたのです。

（中略）

神様は、今の世をどのようにご覧になつているのでしょうか。金光大神様は、「世が開けるといふけれども、開けるのではない。

こわれるのである。そこで、金光大神が世界を助けに出たのである」とおっしゃいました。今こそ私たちは、このご真意を真摯に受け止め、一人ひとりが生神金光大神様のお取次を真剣に頂き、現していく生き方を実践していく時ではないでしょうか。そうならば、いかなる困難なことに出遭っても、道は、自ずから開けるものと信じます。(後略) ※『天地』5月号より抜粋



「コロナ禍」の中での信心 〜先生方へのアンケートから〜

当連合会では、現在、教師間の情報交流ができづらいことから、緊急アンケートを行い、コロナウイルス対策についての情報共有を行いました。ここでは、特に現在の状況を先生方がどのように受けとめ、信徒のみなさんにどのようにお話しているか、アンケートの回答の中からご紹介します。(回答締切 4月10日)

【御祈念・参拝について】

○自らのご祈念の時に、感染者の回復、感染の終息を祈願している。
○ご祈念の時、首都圏フォーラム作成の「新

型コロナウイルス流行終息祈願詞」を唱えている。

○一刻も早い終息を共々に願わせて頂くことを伝えている。信徒もそれぞれ自宅での「新型コロナウイルス流行終息祈願詞」をあげてもらっている。

○このような時だからこそ神様に向かうことが大事。参拝も工夫したらいい。
○家庭で祈る事の大切さ、本部や教会へ心を向けて遙拝することの大切さを論している。

【受け止め方】

○「世界真の平和、総氏子身の上安全」を願い続けていると、コロナウイルス流行の問題も神様のご機感(み心)に沿わぬ人間に対するお叱りとも受け取れる。そのご無礼をお詫び申し上げている。この神様のご機感について、「コロナウイルスが感染を広げているのではない。人間が感染を広げているのである」との海外の女性のコメントを耳にし合点した。

○教祖様が明治6年神前撤去の時に辛抱されて生まれた『天地書附』を、改めて頂くことを心がけている。

○難をみかげにしていこうと話している。また、人間の生き方が自分勝手になっていることの改まりが必要である。

○人間が住むところに厄介者がやって来たのではなく、そういうものがあると

に一緒に住まわせてもらっている私たちである。

【信心実践について】

○危機に直面した時こそ、信心の質が問われる。何もない時に安心なのは当たり前であり、苦難の中に安心が見出せてこそ、信心の意味がある。不安に駆られてマスクを買い占める者もいれば、マスクを作って配る者もいる。どちらが神様の大御心に適う生き方か。この難局をご信心させて頂く者としてどう受けていくか、共に祈って参ろう。

○感染防止の努力は人間としてできる限りのことを行い、感染をせぬよう、神にお守り頂く。

○緊急事態宣言の期間を「緊急事態信行期間」としている。生かされていること、無事であることをお礼申すこと、滅入る時も喜びを見つけること、自宅御神前で御祈念すること、御教えを頂くこと、世界の助かりを願うこと、などに取り組むように呼びかけている。また、遠慮なく電話、メール、手紙でのお取次を頂くように強調している。

○東日本大震災で備蓄ということが言われて久しいが、何か報道や情報が流れると、物が買えなくなることが起こる。もう少し互いを気遣う想像力を持たないといけないと思わされる。

今年度連合会活動の予定変更について

新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組みとして、当連合会の活動も変更せざるを得ない状況です。これまでも会議等の中止や延期がありました。今後の活動について現時点での予定と見通しをお知らせいたします。

○運営委員会

3月5月は中止しました。以後は状況により判断します。

○教師信徒研修会

来年度に延期を決定しました。

○輔教懇談会

推移を見て年内開催か中止を決定します。

○みんなのつどい

今年度は中止いたします。ただしプロジェクト会議は継続し、来年につなげていきます。

○教師部

・教師会…6月は中止。以後は状況により判断します。

・定期教話…中止します。

・教話研修会…6月の開催は見送り年内に開催予定。ただし状況によって来年に延期します。

・ひいらぎの会…6月開催予定を12月に延期します。

・青壮年教師懇談会…秋以降に開催の予定です。

定ですが、状況を見て判断します。

○信徒部

女性のつどい（8月29日）、地域交流会

（11月）、講話と夕食の会（12月5日）

は現段階では予定通り実施予定ですが、

状況により変更の可能性がります。

委員会は3月を7月に延期しました。状況により変更の可能性がります。



新型コロナウイルス流行終息祈願詞

いしがみこんこうだいじんさま
生神金光大神様 天地金乃神様

せいかいかくち ひろ
世界各地に広がっております、新型コロナウイルス流行の、

ウイルス流行の、

一刻も早い終息をお願い申し上げます。

悲しくも、亡くなりました人たちが、

御霊のお道立てを頂かれますよう、

罹患した人たちが、すみやかに回復いたしますよう、

政治・経済・教育をはじめ、すべての営みに過ちなく、

人々の不安や不信が取り除かれ、社会の

混乱が鎮まりますよう、

苦難にあえぐ人たちが、

助かり暮らしが立ち行きますよう、

なにとぞお願い申し上げます。

今こそ生かされているお礼に立ちかえり、

神心となつて人を祈り助け導き、

「人を助けてわが身助かる信心」を、

世に顕させてくださいませ。

どうぞ世界の人々が、

安心・安全・健康に暮らすことができますよう、

一刻も早い終息をお願い申し上げます。

いしがみこんこうだいじんさま
生神金光大神様 天地金乃神様

いしがみこんこうだいじんさま
生神金光大神様 天地金乃神様

いしがみこんこうだいじんさま
生神金光大神様 天地金乃神様

（金光教首都圏フォーラム作成）

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田信 一一

横浜市泉区下飯田町926・23

〒245-0017 金光教横浜西教会内